

2007 年度

科目名 倫理学概論 B	対象学科・学年 文学部文財 2 回生 人間人社 2 回生	担当者 林 進
授業テーマ 近代ヨーロッパ倫理思想概観		
授業の概要と目標 ヨーロッパ近・現代を中心に倫理思想を概観する。とくにカントに代表される近代の道德論と、その近代の道德価値に対して批判の刃を向けたニーチェの反道德論を両輪にして、実存主義や社会契約説の道德論、あるいは功利主義やプラグマティズムの道德思想を説明し、善と悪、罪と罰、正義と自由、などの問題を考察する。		
評価方法 レポート提出。出席重視		
テキスト プリント配布	著者	出版社
参考書 授業の中で指示	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 「私」という存在をめぐって——デカルトとニーチェとフロイト 2. 実存主義（1）——キルケゴールの「単独者」 3. ニーチェの道德批判（1）——奴隷道德 4. ニーチェの道德批判（2）——ルサンチマン 5. ニーチェの道德批判（3）——超人道德 6. 実存主義（2）——ハイデガーとサルトル 7. 社会契約説（1）——ホッブズ 8. 社会契約説（2）——ロックとルソー 9. 功利主義——ベンサムとミル 10. プラグマティズム（1）——パース 11. プラグマティズム（2）——ジェイムズとデューイ 12. 啓蒙の弁証法——アドルノとホルクハイマー 13. 悪とは何か——カント道德とドストエフスキー『罪と罰』をめぐって 14. なぜ道德的であるべきか——カントの道德律と社会契約説の道德 15. レポート提出		